

第2学年国語科学習指導案

指導者 観音寺市立大野原中学校 大塚 裕介

1 単元名

「論証 ～それって本当ですか?～」

田中真知「黄金の扇風機」、千住博「サハラ砂漠の茶会」 (新しい国語2 東京書籍)

2 単元について

(1) 本単元では、論証の習得と活用を目指す。論証は、生徒にとってなじみの薄い言葉であり、敬遠される傾向にある。しかし、生活の中に論証はあふれており、誰かを説得する時や、議論をする時など、生徒の生活の中にも論証は存在する。論証の説得力を見極めることができるようになれば、説明的な文章をうのみにしない自立した読者となり、社会に対し、正対して立ち向かうことができるようになるであろう。

本単元で扱う「黄金の扇風機」と「サハラ砂漠の茶会」は、どちらも「美」という共通のテーマについて論じた説明的文章である。「黄金の扇風機」は筆者がエジプトで感じた日本との美的感覚の違いや価値観の変化を目の当たりにした体験から、美に対して心を柔軟に開いておくことの大切さを説いている。「サハラ砂漠の茶会」は、筆者が見聞きした三つの事例を挙げ、「人間は皆同じである」ことを伝えるのが美的体験であると論じている。どちらの文章も、主張に対して根拠となる事例が述べられているものの、事例に対する解釈がやや主観的であったり、事例の数が少なかったりするため、論証の仕方を批判的に吟味しながら、論理の展開を学ぶのに適した題材である。

単元の最後には、活用教材としてインターネットに上げられた文章を扱う活動を設定する。インターネット上には無数の文章があり、その内容は玉石混交である。多くの生徒がスマートフォンやタブレットを使用し、気軽にインターネットに接続できる環境にある今、インターネット上の文章は生徒が目にすることも多く、生活に密着したものであると言える。そのような文章の論証を吟味することは、日常生活ひいては社会生活の中に論証があると実感することにつながる。

重点指導事項は、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C 読むこと」における「ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること」及び、「エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること」である。本単元を通して、論証の仕方を吟味する姿勢を身につけ、社会で活用できる読みの力を育てていく。

(2) 本学級の生徒は、国語の授業に対して好意的な生徒が多く、1学期に実施したアンケート調査では、「国語の授業が好きですか」という質問に90%以上の生徒が肯定的な回答をしている。一方、「苦手なジャンルは何ですか」の質問に説明的文章を挙げた生徒が半数近くおり、説明的文章に対して苦手意識をもつ生徒が多いことが分かっている。また、学力に不安のある生徒が多く、やや高度な問いかけになると答えることができなったり、定期テストの記述式の答案に白紙で解答したりする生徒も見られる。さらに、グループ活動等で自分の意見を表現することを苦手とする生徒も多い。

生徒はこれまでの説明的文章の授業において、「説得力」をキーワードに学習を行ってきており、「事実と考え」、「問いと答え」、「主張と例」などについて考えてきている。そして、説得力のある文章は、事実を根拠にして論じられていることを学習している。

アンケートによると、半数の生徒が生活の中で説得力を意識していると回答しており、授業での学習内容と生活とがつながりつつあることがうかがえる。しかし、多くの生徒は、根拠が挙げられていればそれだけで説得力があると感じ、根拠自体の妥当性や主張とのつながりまで考えるに至っていないことが授業での様子から分かっている。

(3) 以上を踏まえ、次の点に留意して指導する。

○ **生徒の興味・関心を引き出す単元構成の工夫**

単元を通して興味・関心をもって論証を習得・活用することを目指し、①「ゲーム形式での導入」、②「ニューヨークの事例の検討」、③「インターネット上の文章の学習」を設定し、単元構成を工夫する。

①では、堅苦しく思われがちな論証をスムーズに理解できるようにするために、単元の導入としてゲーム形式で論証を知る（体験する）活動を設定する。身近な題材を取り上げてゲームを行うことで、身の回りに論証があふれていることを実感させ、論証に対する抵抗感を取り除くようにする。

②では、生徒の多くがもっている「根拠があればそれだけで説得力がある」という考えを揺さぶるために、特に、根拠となっている事例に焦点化した授業の流れを構想する。その中でも、筆者が別の文章で述べているニューヨークの事例を取り上げ、本文の根拠として入れるべきか検討する。筆者の主張との関係をすり合わせながら根拠の妥当性を吟味することにつながる。

③では、教科書外の文章としてインターネット上の文章を扱う。生活に密着したものであるため、生徒は学習に対して主体的に取り組むことができ、論証を意識することが自分の生活を確かめ豊かなものにするという期待感をもたせることを目指す。

○ **生徒全員が学習に主体的に参加することができる学習課題・教具の工夫**

どの生徒も主体的に学習に参加できる工夫を行う。例えば、二項対立型の学習課題や発問を設定する。これにより、苦手意識のある生徒でも、全員が自分の立場を明確にすることができる。また、自分の納得度を表現する「納得度メーター」を用いる。自分の考えを表明しやすくするとともに、他者の考えを可視化し、自分との差異が明確になることで、対話を喚起する効果も期待できる。これにより、より充実した学習意欲を引き出すことができるであろう。また、「論証カード」を使用し、生徒がいつでも論証や根拠が十分かどうかを立ち止まって考えることができるようにし、苦手意識をもつ説明的文章の学習に対してハードルを下げ、学力に不安がある生徒も含め、全ての生徒が主体的に授業に参加できる環境を担保したい。

○ **学習の深まりや変容を自覚できる振り返りの工夫**

単元を通して、毎時間「論証」をキーワードにした振り返りの時間を設定する。さらに、単元で1枚の振り返りシートに記入するようにシートの様式を工夫する。これらの工夫により、生徒は自己の変容を自覚するとともに、学習の深まりを実感することができる。また、単元の最後には、「論証」をキーワードとして単元全体を通した振り返りを文章として記述する活動を設ける。生徒は単元全体を通した自己の学びをより深く自覚し、学習内容を定着させることや社会生活に生かそうとする意欲の高まりをもたせることが期待できる。

3 単元の目標

- (1) 考えと根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能] (2) ア
- (2) 「黄金の扇風機」と「サハラ砂漠の茶会」を比較しながら読み、論証の仕方について自分の言葉で評価することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) エ

- (3) インターネット上の文章について、論拠を明確にして論理の展開について考えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) ア
- (4) 複数の文章を進んで読み、意見を交流しながら筆者の論証の仕方に対する自分の考えを粘り強くまとめようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えと根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア	①「黄金の扇風機」と「サハラ砂漠の茶会」を比較しながら読み、論証の仕方について自分の言葉で評価している。(C (1) エ) ②インターネット上の文章について、論拠を明確にして論理の展開について考えている。 (C (1) ア)	①複数の文章を進んで読み、意見を交流しながら筆者の論証の仕方に対する自分の考えを粘り強くまとめようとしている。

5 単元の学習指導計画 (全7時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法等
1 (習得)	・ 論証ゲームを通して論証について理解することができる。	・ 「論証ゲーム」を行い、論証について知る。	[主体的に学習に取り組む態度] ① ワークシート・観察 ・ 進んで論証を理解しようとしている。
2 (習得)	・ 「黄金の扇風機」と「サハラ砂漠の茶会」を読み、論証の仕方について理解することができる。	・ 「黄金の扇風機」と「サハラ砂漠の茶会」を通読し、論証の仕方を確認する。 ・ 「どちらの論証の仕方に納得するか」という学習課題について自分の考えを書く。	[知識・技能] ① ノート ・ 論証カードの内容を踏まえて論証の仕方を理解している。
3 ・ 4 本時 (習得)	・ 筆者が根拠として挙げた事例について主張と根拠の関係を吟味し、評価することができる。 ・ 主張を支える根拠としてより説得力のある事例について吟味できる。	・ 主張に対する根拠となっている事例を吟味する。 ・ 筆者が別の文章で述べている事例を、本文に付け加えるべきかどうかについて考える。	[思考・判断・表現] ① ノート ・ 根拠の妥当性や主張とのつながりなどに注目し、論証の仕方について自分の意見を書いている。
5 ・ 6 (習得) (活用)	・ 「黄金の扇風機」と「サハラ砂漠の茶会」の論証の仕方について、自分の考えをもつ。	・ 前時までに考えた論証の仕方を比較し、意見文を書く。 ・ 学級内で意見を交流し、考えを深める。	[思考・判断・表現] ① ノート ・ 文章の展開や構成に着目し、二つの論証の仕方についての自分の考えを書いている。
7 + 家庭学習 (活用)	・ インターネット上の文章を読んで、論証の仕方について自分の考えをもつ。	・ 「論証の仕方に納得するか」という学習課題について考え、それに対する意見文を書く。 ・ 論証をキーワードに、単元を通した振り返りを書く。	[思考・判断・表現] ② [主体的に学習に取り組む態度] ① ノート・振り返りシート ・ 既習事項を活用して、主体的に課題に取り組もうとしたり、粘り強く自分の考えを文章に書き表したりしようとしている。

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・筆者が挙げた事例について、主張との関係を吟味し、評価することができる。
- ・主張を支える根拠として、ニューヨークの事例の是非を考えることができる。

(2) 学習指導過程

学習内容・学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援・評価
1 筆者の主張と根拠を再確認し、学習課題を確認する。	・「サハラ砂漠の茶会」の事例について考えていたな。	・論証カードを示し、論証について確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 根拠となる事例は十分か </div>		
2 学習課題について考える。 (1) 班で考える。 (2) 全体で考える。	【十分である】 ・食べ物や芸術、アフリカでの体験など、具体例がたくさんある。 ・「美しい心」は誰もが理解できるという点で説得力がある。 【十分でない】 ・根拠となる事例に筆者の主観が多く、誰もが納得できる根拠とは言えない。 ・「皆のもの」(9段落)は、「皆同じ」という主張とは結びつかないのではないか。	・どの見方・考え方カードをもとに考えたかを併せて発表するよう指示する。 ・議論をかみ合わせるために、見方カードや論証カードによって整理しながら問い返したり、板書を工夫したりする。 ・議論がより深まるように、事例の量に着目した意見と内容に着目した意見を整理して板書する。
3 ニューヨークの事例を根拠として入れるべきか考える。	【入れるべき】 ・アフリカ以外の場所でも「人間は皆同じ」を感じる体験をしたというのは重要だ。 ・温度はおいしさよりも客観的なものなので、誰もが理解できるという点で説得力がある。 【入れるべきではない】 ・アフリカでの事例と言っている内容はさして変わらない。 ・インタビューやアンケートなど、筆者以外の人の意見やデータなどがあればいいのだが。	・思いつきで考えるのではなく、筆者の論証や主張を崩さずに考えるよう指示する。 ・ニューヨークの事例を入れるなら、「どこに入れるか」「入れ替えるならどの事例か」など追発問し、生徒の考えを揺さぶる。 ・ノートに、本文の表現を根拠として考えを記述できているかを評価する。(Bと判断する状況) ・Cと判断する状況の生徒に対しては、論証カードの内容を踏まえて書くよう助言する。
4 本時の学習を振り返る。	・事例があれば説得力が高くなると思っていたが、そうとも限らない。事例の中身をよく吟味したい。	・本時に使用した見方・考え方カードを挙げながら振り返りを記入するよう指示する。